

「シンクイムシ」とは？

「シンクイムシ」や「ダイコンシンクイムシ」の通称で知られている害虫ですが、正式な名前は「ハイマダラノメイガ」です。
 成虫は、写真1のような姿で、体長7～9mm程度です。幼虫は、成長すると体長14mm程度、頭が黒く、背面に褐色の縦じまがあります。
 幼虫は、作物の芯(生長点)に入り込んだり、若い葉を綴って食害します(写真2、3)。作物を食害する幼虫を捕まえたとき、一見すると、うすいあめ色に見えるでしょう(写真4)。
 なお、幼虫はキャベツ、ブロッコリー、ダイコン、カブ、ハクサイ、チンゲンサイ、コマツナなどのアブラナ科野菜を食害します。
 また、同時期の栽培では、キャベツやブロッコリーよりも、ハクサイやダイコンを好むとされています。



写真1 「シンクイムシ」成虫 (県農業技術センター病害虫防除部提供)

営農だより

知っておきたい「シンクイムシ」の生態と発生時期

神奈川県農業技術センター三浦半島地区事務所 奥村 一

6月号なのに「シンクイムシ」の話かい？と思われるかもしれませんが、実は目立たないだけで、早い時期からわずかながら発生しているのです。今回は、秋冬野菜の育苗が始まる前のこの時期に「シンクイムシ」は、いつごろから気をつけなければならないか？を中心に生態と簡単なモニタリング手法について紹介します。



ハクサイの生長点付近に寄生する「シンクイムシ」幼虫



写真3 ダイコンの被害 (県農業技術センター病害虫防除部提供)



写真2 キャベツでの被害 (県農業技術センター病害虫防除部提供)

写真4 ダイコンの葉を綴り、中に潜む幼虫(写真上下に撮影者の指が映り込んでいる) 県農業技術センター病害虫防除部提供)

「シンクイムシ」はいつ頃発生するのか？

一般的に成虫の発生は、4月頃から確認できますが、4～7月頃までの発生量は少ない傾向となります。8月以降、徐々に発生が目立つようになり、9～10月に発生量のピークとなります。なお、年間の成虫の発生時期と発生量のイメージは、図1のとおりです。



図1 「シンクイムシ」(ハイマダラノメイガ)成虫年間発生時期と発生量の一般的なイメージ

赤太線が成虫の発生時期と発生量を示す(線の山の高さが高いほど、その時期の成虫発生量が多いことを示す)

ハクサイを使った簡単な被害モニタリング

「シンクイムシ」の被害を効果的に防ぐには、成虫の発生をなるべく早く把握することが重要です。前述のとおり、「シンクイムシ」はキャベツやブロッコリーよりもハクサイを好むといわれています。そこで、農業技術センター三浦半島地区事務所では、平成30年(2018年)7月からハクサイを簡易栽培し、被害発生時期を把握するための簡単なモニタリング調査を行いました(図2)。この方法のポイントは次のとおりです。

- ① ハクサイを使う(キャベツ、ブロッコリーより被害が出やすい傾向を利用)
 - ② 定期的に種まき(常に柔らかい植物体を準備)
 - ③ 定期的な観察(朝・夕の観察が理想)
 - ④ 被害株は速やかに除去(いま見えている被害が、いつの被害かわからなくなるのを防ぐために) 平成30年の調査では、8月2日に最初の被害を確認し、少々遅くとも7月下旬から成虫が産卵をしていることが推測できました。
- 皆さんも庭先など、ちよとしたスペースで、ハクサイを使った「シンクイムシ」被害モニタリングを利用し、効果的な防除に役立ててみてはいかがでしょうか？

農業技術センターでのモニタリングの様子 (H30年実施)



セルトレイ簡易栽培 (H30年7月3日栽培開始)

農業技術センターでは、2階建庁舎の2階ベランダに設置



「シンクイムシ」の初期被害は赤線の写のような状態となる

- ・ は種を、7日おきに実施→常に柔らかい植物体を準備
- ・ 定期的な観察
- ・ 被害が認められた株は、速やかに除去
- ・ かん水などの管理作業を考慮した場合、容量の大きな栽培用容器での栽培も考えられる

※この方法は、被害発生時期の始まりや、その後の発生状況の推測への利用が期待できる

図2 ハクサイ簡易栽培による「シンクイムシ」被害の簡単なモニタリング